

望岳山荘  
いって



中嶋 嶺雄

このところ国際的な留学  
生交流の関連での海外出張  
が続いた。十月中旬には私  
が国際事務総長を務めるU  
MAP(アジア太平洋大学  
交流機構)の国際理事会が  
議長国マレーシアのコタキ  
ナバルで開かれた。私が到  
着した日には、マレーシア  
・サバ大学主催のe-le  
arning(インターネ  
ットによる遠隔授業)に関  
する国際シンポジウムが行  
われており、欧米やアジア  
の参加者が熱心に討議して  
いた。UMAP国際理事会  
ののちにサバ大学を訪問し

たのだが、その規模の大き  
さといかにも南洋風な立派  
なキャンパスには驚くばか  
りであった。

十一月初旬にはASEM  
(アジア欧州会議)の教育  
ハブがシンガポールで開か  
れた。私は大学間の国際的  
な単位互換制度と日本の高  
等教育の在り方について報  
告したのだが、シンガポー  
ル大学の広いキャンパスに  
は、日本の小泉首相も提唱  
者の一人であるアジアと欧  
州間の教育交流に備えたア  
ジア欧州財団(ASEF)  
の立派な会館が落成したば  
かりで、高等教育にかける  
シンガポールの熱意がみな  
ぎっていた。

もとより、これらの会議は  
すべて英語で進行してお  
り、皆よく英語ができて、  
きわめて積極的に発言して  
いる。

こうしてみると、日本が  
この十年ほどすっかり落ち  
込んで元気を失っているあ  
いだに、アジア諸国は人材  
養成こそ重要であり、とく  
に高等教育は二世紀の基  
幹産業だと位置づけて頑張  
っている姿がうかがえる。

### 国際教養大学の挑戦

加しているのに、会議では  
全く発言がなかった。国際  
社会で知的リーダーシップ  
をとることにこそ日本の役割  
であるはずなのに、現実は  
お寒い限りである。

今年四月に全国初の独立  
行政法人の公立大学として  
秋田県に開学する国際教養  
大学(Akita Int  
ernational U  
niversity)は、  
二世紀の日本を担って国  
際社会で活躍できる人材を  
養成するための少数精鋭の  
大学を目指している。学生  
定員は百名十留学生五〇

名、授業も会議もすべて英  
語、全員が一年間の留学必  
修、新入生は個室全寮制、  
図書館は二四時間開館、国  
籍・性別・年齢を問わない  
約七〇名の教職員は大半が  
外国人で三年間の任期制、  
給与は評価に基づく年俸  
制、といった新しい試みの  
大学が十一月二十七日に設  
置認可された。

学長の私自身もグローバ  
ル・スタディズや東アジア  
研究の授業を受け持つが、  
全世界に公募した教官は皆  
トップクラスである。前多  
摩大学学長のグレゴリー・  
クラーク氏が副学長を引き  
受けてくれた。秋田県出身  
で元国連事務次長の明石康  
さんも「紛争予防外交論」  
を講義される。一年次は英  
語漬けになるので、リラッ  
クスのためにスポーツ科目  
はオリンピック級の教官を  
採用し、芸術・芸術論はスズ  
キ・メソッド出身の世界的  
なヴァイオリニスト渡辺玲  
(前東京外国語大学長 札幌  
本市出身)